

「貧しい人たちは幸いです」

ルカの福音書 6 : 20~26

今日は、いわゆる「山上の垂訓」とよばれる、イエス様が、集中的に、聖書の話しをされた、その箇所です。



今、ルカの福音書から教えられておりますが、有名なのは、同じ福音書のマタイの福音書のほうでがあります。二つの福音書には興味深い、強調点の違いというようなものはあります。その違いが、ルカの強調点であったりします。今日は、ですから、ある程度割愛しながら、全体として、このところを見ていきたいと思ひます。マタイとの対比で、たとえば、今日の冒頭の聖句を読みまします。

ルカの福音書「**6:20 イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話し始められた。「貧しい人たちは幸いです。神の国はあなたがたのものだからです。」**は、マタイの福音書では、こうあります。

マタイの福音書「**5:3 心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。**」

特に目をひくのは、マタイでは、「心の貧しさ」とあり、ルカでは、その「心の」と取ってしまつて、「貧しい人」と、必ずしも、心の問題ではなく、むしろ、このまま読めば、実際に、貧困である場合、お金がない、暮らしに困るといふような意味を含んでいるといふことです。

この聖句を並べましたが、もう一つ大きな強調点の違いがあります。

それは、マタイでは、弟子達に語られたところでは、言っていないといふことです。正確に言つと、それは、マタイでも前の節で、「イエス様が腰を下ろすとみもとに弟子達が来た」といふ言葉が加えられていて、単に、たまたま弟子達が来ましたよといふ状況の報告のようですが、ルカでは、イエス様が明確に、「弟子達を見つめながら」と、明確に、一般クリスチャン、一般会衆よりも、とくに、イエス様に選ばれ、伝道に遣わされる弟子達に語られた内容のことであると強調しているように見えるといふことです。

マタイの言うように、「心の貧しい者」とくれば、むしろ、一般的な真理、それは、実際に貧しかろうと、そうでなかろうと関係ない、富んでいても、心が貧しい人がある、貧しくても、心は、豊かで余裕のある人があるといふ意味になつて、その勧めは、「心の持ち方」の教えになるわけですが、ルカの場合は、結論的には同じ教えにはなろうかと思ひますが、実際に、物質的に貧しくても、それに左右されない生き方をしようといふ言い方、結論は同じようですが、強調点の違いがあると

いうことになります。

6章ほぼ全体にわたる、マタイよりは短いルカによる山上の垂訓の記事ですが、その中心には、クリスチャン全体と言うより、特に、すべてを捨てて、貧しくなっても、福音を伝えていこうとする伝道者への励ましであり、注意であるということです。

マタイは、一般的な聖書の真理、ルカは、弟子への伝道の心がけという違いだと言うことです。

それでは、私たちが、今朝、ルカによる福音書から山上の垂訓を教えられる意味はどこにあるのかという事になりそうですが、先ほど言った、強調点の違い、そこにあるように思います。すなわち、「**実際に、物質的に貧しくても、それに左右されない生き方をしよう**」と、弱き人達、すなわち病人や、女性、子ども、そして、貧しき人々と実際に寄り添って生きたイエス様、そしてルカ自身の、ある意味では、マタイの教訓的と言うよりも、実践的なイエス様のことばとして読み取ろうというところに意味がありそうだと言うことです。

すなわち、皆さんの中で、病気の人がいたら、女性がいて、この世の理不尽の中で不公平を感じているなら、実際貧しくて、消費税ひとつが上がっただけで、食費が削られそう、家計がひっ迫して、恐怖を感じるというような生活の実感の中で聞くべきことば、そこに、その実際の貧しさの中にも、イエス様は寄り添い、本当の意味での「幸いです」を感じていけるのだと、そう思えるのだと言うことを、教えられると言うことであります。

さて、今日は、山上の垂訓の最初でしたので、すこし難しいことからお話ししましたが、今から、このきわめて実践的で、教えられる、山上の垂訓の最初の部分を味わってまいりましょう。

マタイの福音書では、「幸いです」で一貫して書かれているこの箇所を、ルカは、前半の「幸いです」と比較して、後半で、「哀れです」と対比させています。

もっと正確に言うと三つの幸いと、それに対応する三つの哀れを対比させているのです。そのことを意識しながら、全体を今一度、読みますので、味わって下さい。

3つの幸い

- ① 「6:20・**貧しい人たちは幸いです。神の国はあなたがたのものだからです。**」
- ② 「6:21 **今飢えている人たちは幸いです。あなたがたは満ち足りるようになるからです。**」
- ③ 「**今泣いている人たちは幸いです。あなたがたは笑うようになるからです。**」

三つと言いましたが、私の理解では、この後に加わる 22～23 節は、最初に言いました弟子達への山上の垂訓という意味での、この三つの幸いの、伝道者である弟子への、具体的な説明の要素となっています。そこは、こうです。

「6:22 人々があなたがたを憎むとき、人の子のゆえに排除し、ののしり、あなたがたの名を悪しざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。6:23 その日には躍り上がって喜びなさい。見なさい。天においてあなたがたの報い

は大きいのですから。彼らの先祖たちも、預言者たちに同じことをしたのです。」

御言葉を伝えて、その結果、迫害されたり、この世的に生き方がむつかしくな
って、貧しくなって飢えても、泣いても、大丈夫だ、それも含めて幸い、それもふ
くめて、イエス様の弟子にとっては喜び以外ではないのだと教えていると言う事
です。みなさんは、どうでしょうか。実際の貧しさ、飢えを感じたり、泣きたくて泣
きたくて、実際に涙がとまらないような夜に、この御言葉は、言うのです。

貧しくても、イエス様の愛に、幸いを見いだしなさい。飢えていても、まこと
の命、天国の命まで取られたのではないのだから、オールオッケー、幸せだと思
いなさい。泣きたくても、イエス様こそあなたの罪のために泣いて下さって、あなた
のために十字架についてくださり、あなたが、最終的に泣かないようにして下っ
ている、喜びなさいと言っていてくださるといことではないのでしょうか。さて、こ
の中心的な「幸いです」の三つの教えに対応しているのが、三つの「哀れ」です。
ちなみにここでいう「哀れ」とは、ものの哀れを思うという時に使うような趣があ
るという意味ではなくて、可愛そうだ、不幸だという意味です。

3つの哀(あわれ)

- ① 「6:24 **しかし、富んでいるあなたがたは哀れです。あなたがたは慰めをす
でに受けているからです。**」 (:20 に対応)
- ② 「6:25a **今満腹しているあなたがたは哀れです。あなたがたは飢えるよう
になるからです。**」 (:21a に対応)
- ③ 「6:25b **今笑っているあなたがたは哀れです。あなたがたは泣き悲しむよう
になるからです。**」 (21b に対応)

そして、最初の3つの幸いに、弟子への具体的な言葉が付け加えられたように、
ここの3つの哀れにも、弟子への、具体的な励ましがあります。富んでいること、
満腹していることこそ哀れだ、不幸だと、実際には、満腹の後に、飢えが始ま
り不安におびえ、富んでいることでかえって、家族の不和を生じさせ、少しでも財
産が失われることにビクビクしながら生きている哀れな人達がいるのだ、あなた
たちは、そうあってはならないと言っているのです。特に弟子達にはこう言われます。

**「6:26 人々がみな、あなたがたをほめるとき、あなたがたは哀れです。彼らの
先祖たちも、偽預言者たちに同じことをしたのです。」**

哀れなのは、まことのキリストの弟子達ではなくて、弟子を迫害する、いつわ
りの預言者達だということです。

さて、今日の箇所を急いで見てきました。ルカの福音書から教えられる山上の
垂訓、そこを読んで、貧しいことや、飢えていること、泣いていることに、新しい
見方、それでも幸せだと、感謝だと、賛美ですと生きていく信仰者の姿を想像でき
たでしょうか。



私は、NHK朝ドラで、日本のナイチンゲール、日本で最初の看護婦(看護師)となった、大関和(ちか：十子?)について、すでに少し話しました。

この方について、あまりに資料が少なく、その人物像を想像するのがむづかしいとされています。一冊の本を買って少し読みましたが、作者の想像を交えて、



想像された人物像となっているので、あまり参考になりませんでした。また、今、朝ドラでやっている内容は、実際の人物を描いていますが、最初の看護婦の一人、鈴木雅さんと、ごっちゃに描かれているようです。そこで、日本の基督教の

歴史の一級の資料と言われる、『植村正久とその時代』という本で、大関和子の引照をさぐりながら、わずか残された、彼女の手記や、彼女についての言葉などを先週、見ていました。

大関和(ちか)は、栃木県の大名家老の家に生まれた女性ですが、明治になって貧しくなります。10代で、家を支えるために結婚して二人の子をもうけますが、夫がめかけを困い、ついに逃げ出します。そして、英語を学びで出会った、植村正久の娘さんや、植村正久の弟などと交流を持つようになります。そして、ついに彼女は、教会の伝道師となり、また、植村に勧められ日本で最初の看護婦になります。最初の看護学校を出たとき、6人の看護婦は、それぞれが東大病院の内科、外科のそれぞれの科の、看護婦長になります。ドイツ語を学び、英語を学んだ彼女たちは医者以上の知識もあり、けむたがれ、大関は二年で首になり、新潟で新しく始まった病院の看護師長として、そして、教会の伝道師となります。その後も、東京で、看護師を育てる働きをし、日本のナイチンゲールと言われるようになります。そんな彼女ですが、ドラマでは植村正久だろうと思う、牧師が、泣き虫なのですが、実際は、和自身が泣き虫だったようで、こんな記録です。それは、植村正久の娘さんが書いた、あるエピソードでこんな事が書いてありました。「大関看護婦会の設立者で、日本の看護婦の先達であり・・傑出した婦人であったが、よく泣かれた。たびたび、牧師の父のもとを訪れては、堰(せき)を切ったように泣かれたと。」あ



まりになく者で、父は泣く人が嫌いで、父はどうやってなぐさめていいかわからぬので、「あなたはナイチンゲールなのでしょう。それじゃ、まるで『泣きちゃんガエル』ではないか」と言ったと。一方で、彼女の手記もありました。東大病院の外科の看護師長となって、「重い責任を追って・・・(絶えきれず)毎朝 3

時に中央教会堂まで行っては、天職を全うすることが出来るように神さまに祈りを捧げました。」と。夜中なので、廣瀬うめ子さんが一緒に行ってくれましたと。彼女も最初のトレインドナース(専門の看護師)の一人です。

泣いて神さまに祈り、神さまに祈って、しかし挫折して泣く。そんな人が、日本のナイチンゲールと言われるチカであり、日本で最初の看護師と言われた大関和子だったということだけが、ほぼわかりました。

「6:25b 今泣いている人たちは幸いです。あなたがたは笑うようになるからです。」

彼女もまた、必死にイエス様に従って生きて、理解されずに、時には迫害されるように生き、泣き珍ゲールといわれるような泣き虫であって、しかし、神さまによって、本当の幸いを生き、あるいは、多くの人にもとらし、また、本当の意味で笑って生きた人だったと思ったのです。

さて、みなさんの今週の歩みはどうでしょうか。泣いてばかりとなるでしょうか。しかしそうであって、ついには、感謝と賛美と、その歩みは必ず神さまに従うなら、導かれるのです。涙を笑いに変えて下さる方にこそ従い、歩む、今週の歩みとしたいのです。